保護者アンケートの意見と回答（概要）

1　意見の概要

いただいた意見の抜粋 ◎５人以上　○３人以上		回答
1　開校時期が遅れることについて	【開校に向けての意見】 ◎開校時期が延びるとしても、今後の子どもたちや地域のために良い学校になるように進めていってほしい。 ◎準備期間が長く取れるようになったので、地域の子育て世代、現役の小・中学生の意見をしっかり反映させた学校づくりをしてほしい。 ○遅れるのは仕方がないので、その分いい学校にしたい。 ・一番はそこに通う園児・児童・生徒、そして子どもたちの生活に密に関わる先生方にとって過ごしやすい環境を整えることが大切だと思う。 ・時間がかかりすぎだとは思うが、子どもたちが何年も通う学校なので中途半端にならないようにしっかり意見をまとめていい学校になればいい。 ・いろいろな理由や事情があり、開校時期が遅れることは理解した。 ・開校時期の見直しで保護者としては、特に問題はないと思われる。 ・自分たちの子どもが卒業してからの開校になるので残念だが、これから先も協力できることはしていきたい。 ・一日でも早く、新しい学校で	新しい学校の開校を楽しみにしていただいていましたところ、開校時期が延期になってしまい、大変申し訳ありません。 今後も子どもたちのために、魅力ある学校づくり、安心安全な学校づくりを進めていきたいと思います。 これまでも、基本構想を作成する際に、ワークショップやアンケートで子どもたちの意見を聴取してきました。今後も、子どもたちをはじめ、多くの皆さんのご意見を参考にしながら、しっかりと準備を進めていきたいと考えています。 一日も早い開校に向けてこれからも準備を進めてまいりますので、ご理解ご協力いただきますようお願いいたします。

	子どもたちが充実した学校生活を送れることを願っている。 ・農地転用申請の準備や工事期間など、市民には分からないご苦労がたくさんあるのだと思う。いろいろご配慮頂いていることもありがたいと思う。だからこそ、市民は、行政の段取りが整うまで待つしかないなと感じている。 ・開校が遅れることは残念だが、安全安心が大事なので仕方がない。 ・説明会でも言われていたが、事務局は何度も謝らなくてもよいと思う。	
	【今後の学校づくりへの要望】 ◎子どもたちのために少しでも早く開校してほしい。 ・延期を重ねることで費用が多くかかり、義務教育学校の開校計画自体が頓挫する、白紙になることは絶対にないようにお願いしたい。 ・複式学級になってしまうよりはいいと思うので、途中で打ち止めにならないようお願いしたい。 ・これ以上遅れることが「絶対に」ないようにお願いする。 ・大幅に遅れすぎだなとは感じるが、仕方ないのではないか。ただ、当初の予定に近づける努力はしていくべきだと思う。 ・早急に筋道を立て、それに向かって準備、手続きを進めてほしい。	少しでも早い開校を目指し、現在、令和１３年４月を開校目標として事業を進めています。 このスケジュールに沿って鋭意事業を進めてまいります。 事業費についても必要経費をしっかりと精査し、活用可能な財源を活用しながら、確実に事業を進めてまいります。

	・今後も滞ることなく同時進行で進めることができることは進めていかないといけないと思う。 ・急ぐことは大事だが、いろいろなことを想定して確実に段階を踏んでいってほしい。 ・物の値段も上がってお金のことも心配だが、引き返すことはできないと思うので時間がかかっても確実性を求める。	
	【保護者としての想い】 ◎子どもたちも楽しみにしていたのに大変残念である。 ・当初くらいの開校を期待していたため、開校の見通しが立っていないこの現状は大変がっかりしている。 ・子どもたちや先生たちを混乱させてはいけないと思う。 ・大人の一年はたいしたことではないかもしれないが、子どもの一年は大きい。自分が卒業した学校がなくなるか、存続するか、大人になってからも、心情的にとても大きなことだと思う。 ・我が子には関係ないかもしれないとなると、開校に向けての関心が半減してしまうのが正直なところ。 ・多分、プラス３年では難しそうなので、自分の子には関係ないかなと思えてきた。 ・小学校が遠くなる事を心配していたので、開校時期が遅くなったことがむしろうれしい。	開校を楽しみにしていただいておりましたが、ご期待を裏切るような形になりましたことは大変申し訳なく思っております。少しでも早い開校を目指し、現在、令和１３年４月を開校目標として、事業を進めています。 開校時期の延期に伴い、お子さんが義務教育学校に通われなくなった保護者の方もいらっしゃいますが、地域の子どもたちのための学校づくりに今後もご協力いただけますと幸甚です。 既存の学校に予定よりも長く通っていただくことになりますので、子どもたちが安心して過ごすことができるよう、引き続き学校と連携を図っていきたいと考えています。

	・近い学校に少しでも長く通えるからよかったという声も聞いている。	
	【事務局への意見】 ◎今後のスケジュールを早く示してほしい。 ◎ここにきて開校時期が遅れるというのは、あまりにも見通しが甘いのではないか。調整が不十分だったのではないか。 ◎市の財源を無駄づかいすべきではない。 ・当初の予定から開校時期の延期を決定したことに対し、強く抗議する。こうした安易な延期を許容するつもりはない。 ・市民の声を真摯に受け止め、延期の必要性を徹底的に再検討することを強く求める。 ・開校準備だより第２２号記載の「開校が遅れる理由」は遅れる理由になっていないため、予定どおり令和１０年度美保中学校区義務教育学校の開校をお願いする。 ・法律に詳しく行政経験のある職員を配置して万全の体制で、一刻も早い開校に向けて事業を進めてほしい。 ・卒園して別れる友だちも数年後にはまた会えるとみんなで言っていたのに、会えなくなって子どもたちの心に大きな傷を与えた。どう責任を取るのか。 ・地域の保護者や児童は期待を持って準備を進めていた。	令和７年２月に令和１３年４月を目標とした事業スケジュールを公表しました。まずは、この開校目標に向かって事業を進捗させていきます。 これまでも各部署の専門の職員と連携しながら事業を進めてきましたが、令和１０年の開校に間に合わない事態となり、事業スケジュールの見通しや連携が不十分であったと反省しています。 事業を進めるに当たって、各課題が出てきたところで開校目標の令和１０年４月に何とか間に合うよう、事業を進めてきたところです。しかしながら、各設計を進める中で、各設計において時間を要したことや、現在の設計を踏まえた工事には、当初の見込み以上に工事工期を要すること等が明らかとなり、開校時期が３年から５年程度遅れることが明らかとなったため、この度ご説明させていただいたところです。 不十分であったところは改善し、今後も教育委員会が中心となり、庁内の連携をさらに深め、事業を進めていきますので、ご理解、ご協力いただきますよう、お願いいたします。 なお、事業の進捗状況につきましては、適宜報告させていただきます。

	それにも関わらず、３年から５年も延期するという判断は、あまりにも無責任だ。 ・工期が長引くことが分かった時点で、追加の予算措置や人員強化、優先順位の調整など、あらゆる手段を講じるべきだったはず。それをせずに「想定外だから延期」という結論に飛びつく姿勢は、行政としての自覚に欠けている。 ・「開校が遅れる理由」について、正直言い訳にしか見えない。おそらく、手が回らず着手できていなかったのだろうな、「言い訳が上手な行政」という印象である。 ・市長が直接住民説明するべきだと思う。 ・あいまいな説明ではなく、明確な方針と責任ある対応をすべき。 ・開校時期を遅らせたからと言ってよい学校の建設ができるとは思わない。 ・いつになったら開校できるのか心配である。市は本当に建てる気持ちがあるのか。 ・開校時期の延期は仕方ないと思うが、更に延期になるのではないかと思う。 ・地域の方との連携も取れていない状況であるとも耳にしていたので、今回の開校時期が延びるのは致し方ないと感じている。 ・なんで開校時期がずれたのか計画書など、詳細な書類がほしい。	

	【その他】 ◎特に意見はない。	
2　義務教育学校整備事業について	【事業の見直しについて】 ・結局延期しても、今より物価が高騰するのにできるわけがない。きっと５年後も、材料の高騰により…と延期すると思う。言い訳をして実施しないつもりなら、延期ではなく撤回と発表したらいい。 ・校区審議会で決まったことだから、なにがなんでも義務教育学校を開校させると頑なに思わなくても、現状このまま開校に向けて進むのが難しければ、校区審議会からやり直しをすれば良いと思う。 ・下水処理の問題があるなら場所を美保学園跡などに変更すべきだ。 ・下水を流すのであれば美保学園にはルートがあるのだからそれを流用すればいい。 ・果たして本当に必要なのか。 ・そもそも義務教育学校が必要かどうか。多くの建設費用を費やし３校を１校にまとめたところで、その後児童を確保できなければ無駄な施設に終わる。	令和３年４月に地域住民、学校関係者、保護者、学識経験者等からなる米子市立学校校区審議会を設置し、美保中学校区における「児童生徒数の減少に対応できる学校づくり」及び「小学校の統合または小中一貫型小学校・中学校や義務教育学校の設置」について諮問を行いました。全５回にわたる校区審議会では、「美保中学校区の子どもたちにとってどのような教育環境が最もよいか」という観点から慎重に協議が重ねられ、同年９月に校区審議会から、新たに義務教育学校を設置し、既存の３小学校及び１中学校を廃止すべきとする旨の答申を受けました。この答申に沿って、同年１０月の米子市教育委員会において、既存の３小学校及び１中学校を廃止し、新たに義務教育学校を設置する方針を決定したものであり、今後もこの方針に沿って事業を進めていく考えです。 建設候補地については、令和３年から令和４年にかけて、美保地区の各地域の住民の方々との意見交換や美保地区まちづくり協議会での議論を踏まえ、特に美保地区における人口重心や通学距離を重視しつつ、周辺状況等を考慮して選定したことから、美保学園跡地は最終的な候補地にならなかったものと理解しています。そのため、建設候補地についても変更する考えはありません。
	【事業の進め方について】 ・今後について、もっと地域に説明が必要だと感じる。 ・専門家を呼んだり、専門の職員を配置したりするべきだと思う。 ・減額増額に関わらず年単位で概算工事費を市民に公表	これまでも開校準備だよりや説明会等で事業について説明をさせていただいてきましたが、今後もより多くの方々にご理解いただけるよう、説明を尽くしていきたいと思います。 組織体制につきましては、これまでも専門の職員と連携を取りながら進めてまいりました。今後もより連携を深め、漏れのないように進めていきたいと思います。

	するべきである。 ・土地に関する手続き方法の把握ミス、地域の意見を聞いていながらにも関わらず、あのような建物の配置、まさにがっかりするようなお粗末な結末に、何の希望もない。	義務教育学校整備事業に係る予算につきましては、随時議会で説明し、承認をいただいております。 設計につきましては、皆さんからいただいたご意見を参考に、基本設計業者と協議を重ねて作成したところです。
	【意見聴取について】 ・開校時期はいつでも良いが、意見を反映されているかどうかが気になるところ。実際に我々子育て世代や対象となる子どもの意見より、長年住んでいる高齢者の意見が優先されて物事が進んでいっていないかといったことが危惧される。 ・新しい学校に最も深くかかわっていくのは今の子どもたちや現役親世代である。その若い世代が参加する議論の場を設け、意見を積極的に取り入れることが必要だと思うので、機会の創出をお願いしたい。	幅広く皆さんのご意見をお聞きする場の設定を工夫していきたいと思いますので、懇談会や説明会を企画しました際は、ぜひご参加ください。 説明会等にご参加いただいた保護者の方から、集合型だけではなく、オンラインでの開催や動画配信も取り入れてほしいというご意見をいただきました。開催方法につきましても、検討していきたいと思います。
3　新しい学校について	・せっかくなら時代に合ったいい学校になることを願っている。 ・地域と学校がうまく関わることで子どもたちの生活はより良いものになると信じている。 ・通学路の整備に関して歩行者専用道路や自転車専用道路の整備をしてほしい。 ・安全に通学できる環境を整えてほしい。 ・学童に入ってない子どもが少し親が待てるような図書	地域の皆さんや学校の先生方との連携を図りながら、これからの時代に合った学校づくりを進めていきたいと思います。 通学路や通学方法、PTA の在り方等についても、開校準備委員会や専門部会を中心に検討していきます。 新しい学校での過ごし方、施設の利用の仕方等も子どもたち、保護者の皆さん、学校の先生方の意見も参考にしながら、検討していきます。

	館や自由に過ごせるスペースなどがあればうれしい。 ・PTA の強制入会を辞めて欲しい。 ・バスも左回りしかなく、せめて登下校はすぐ帰れるように考えてほしい。	
4　開校準備委員会について	・開校準備委員会の議事録を見ていると祖父母世代が中心となって議論を進めている印象を受けるが、少々古い価値観をお持ちの方もいらっしゃるのかなと心配している。 ・大幅に遅れるとなると、現時点での話し合いが必要なのかどうか、開校準備委員会の開催についても今後の予定を早い段階で知らせてほしい。	開校が延期になったことに伴い、開校準備委員会のスケジュールも変更されましたが、今後も開校に向けての協議を進めていただく予定です。 様々なお立場から協議を行っていただけるよう、運営の仕方、資料の内容についても工夫していきたいと思います。
5　まちづくりについて	・開校に併せて移住する方もいると思うので、そういった観点からもはっきりとした開校時期を示した方がよい。 ・どんどん少子化が進んでいる美保中校区だと思うが、新しい学校が建つならと引越しを考えてくれる子育て世帯もいると考えられる。地域の発展のためにも早く開校してほしい。 ・市内では児童があふれている学校もあり、美保地区にも住宅地を作れるようにするとか工夫できないのかなと感じる。 ・米子市はこの超高齢化、過疎化地域をどう考えているのか？統合したところで子ど	令和７年２月に令和１３年４月を目標とした事業スケジュールを公表しました。まずは、この開校目標に向かって鋭意事業を進捗させていきます。 美保中学校区の子どもたちのためによりよい教育環境を整備するために義務教育学校を設置します。魅力的な学校になるよう、今後も準備を進めていきます。 土地利用促進を図るため、例えば「地区計画」手法の導入など、公民館周辺をはじめ、新たな学校用地や学校跡地の周辺についても、土地利用規制緩和に向けた検討を進めていきます。 日本全体の問題として少子高齢化が進んでおり、これについては若い世代の労働環境、婚姻数の減少等、多岐に渡る要因によるものであると考えています。そのような現状を踏まえて、本市として、地方創生、郊外とまちなかの一体的な発展に向け、美保地区のまち

	もが増えると思っているのか？持続して運営可能なのか。美保中地区を本当に本気で考えているとは考えられない。	づくりについて検討を進めているところです。あわせて、子どもたちにとってよりよい教育環境の整備に努めてまいります。
６　現在の学校について	・開校が遅れる分、小学校３校と中学校の施設、設備、備品などは必要経費として計上してほしい。 ・遅くなったことにより、小学校での人数が少ない。多くの人と関わることも大事だと思う。 ・複式学級になる子どもたちに対して十分な対応をしていただきたい。 ・延期期間は複式学級にはしないとのことなので、それは守ってほしい。 ・そもそも、複式学級にすることは何が悪いのか。大きな学校にすることのメリット、未だに何も伝わらず、心に響かない。 ・優秀な教師を各学校に配置すること。 ・仮にも令和１０年度開校ができない場合は、現美保中学校での学力向上を徹底して取り組んでいただくよう強く要望する。 ・子どもの数が少なく、親の役員の負担がすごい。とりあえず、PTA の部を減らすなりしてほしい。地域の役員も結局いないので毎年する感じである。 ・いじめ対策を徹底してほしい。教員によるいじめ対策の	開校の遅れにより使用期間が延びる学校・保育施設については、教育・保育環境の安全・安心を最優先に、現施設については引き続き適宜修繕を行い、環境の維持に努めてまいります。 現時点での児童生徒の推定数調査では、令和１０年度に大篠津小学校で複式学級ができることが想定されています。複式学級は国が示す学級の形態の一つです。異学年交流が日常的にできるなどのメリットがある一方、４５分間の授業の中で一定程度自分たちだけで学習を進める時間が生じるなどの課題も挙げられています。米子市の方針では、教員を増やし、複式学級を回避することは行っていませんが、本件については学校整備の遅れによるものなので、開校するまでは複式学級とならないよう、教員の加配を検討することとしています。 児童生徒の学力向上や安心安全な学校生活については、統合に関わらずしっかりと取り組んでいきます。 既存の学校の PTA の在り方については、各 PTA でご協議いただきたいと思います。新しい学校の PTA の在り方については、令和１０年度からの協議を予定しています。

	指導の徹底。今の学校は古く死角が多いため、施設整備を行い、いじめが起こり得る死角の徹底的な除去を必ず実行してほしい。	
7　保育園について	・保育園もどんどん子どもが減ってきているので保育園は１０年に統合するべきではないか。土曜日など一桁の人数で開けているのがもったいない。	崎津・小鳩保育園の統合につきましては、義務教育学校と併せて園舎を整備することとしており、義務教育学校の整備スケジュールと併せて進めていきます。 また、職員配置については、受入れ児童数に応じた配置を行っており、受け入れ児童が少ない状態で開所している園につきましては、需要が高い一時預かり等の保育サービスの実施を検討し、既存の施設及び人員を有効活用した保育施策を検討していきます。

２　質問の概要と回答

いただいた質問の概要		回答
1　開校時期の見直しの公表について	なぜ、こんなぎりぎりの時期になってからの公表になったのか。	複式学級が予見される令和１０年度を開校目標として開校の準備を進めてきましたが、各設計を進める中で開校時期について、３年から５年程度遅れる見通しであることが明らかになりました。つきましては、関係者の皆様にはできるだけ早くお伝えすべく、この時期の公表になったところです。
2　開校が遅れることについて	想定以上に時間がかかったのは何故か。何がどう遅れているのか。	造成設計については、各関係者等との協議に伴い、起業地内の雨水及び汚水の排水先や排水ルートについて、既存排水路を含めた排水能力や経済合理性の比較検討を新たに行うなど、調整に時間を要しました。 建築基本設計については、義務教育学校整備に関する基本的な考え方となる基本構想の策定後に契約締結を行ったため、基本設計業務の開始時期が令和６年３月となりました。また、棟の配置、教室の種類や配置、構造物全体の規模設定等について、内部調整に時間を要したところです。
	申請に時間がかかったと書いてあったが、過去の学校建	申請期間に時間を要したわけではなく、申請に必要な添付図面等の準備に時間を要したと

	設の実績から申請期間は予測できなかったのか。設計に時間を要したからといって、業務工期は延ばせるものなのか。	ころです。設計業務工程は、当初工期を設定して契約をするものですが、今回は事業者ではなく、発注をしたこちら側の問題であるため、必要工期を延ばしたところです。
	なぜ当初の計画が甘かったのか。	各種設計を始める前に計画をお示ししましたが、設計を始める中で想定以上に時間を要することが判明したところです。
	今後のスケジュールをどう確定させるのか。再延期の可能性はあるのか。	少しでも早い開校を目指すため、まずは令和１３年４月を目標として事業を進めていきます。しかし、法令許認可の状況や各工事等について、不測の事態が生じた場合は、スケジュールが変更になる場合があります。
	なぜ、当初の完成時期を発表してしまったのか。	大篠津小学校で複式学級が予見される令和１０年４月を当初の開校目標とし事業を進めていくこととしたためです。
３　義務教育学校設置事業について	当初より資材が高騰したら、材質を安価なものに変える等の措置はあり得るのか。当初よりも経済的でより高品質の新技術、新材料が出た場合、再検討の余地はあるのか。	現在基本設計において、建築材料の質については、建物に付加する環境性能等を考慮し、その性能を発揮させる上で必要な材質のものを経済性も考慮し選定しています。今後は以上の考えを基に、実施設計でも材料や施工方法の検討は行いますし、施工段階でも事業者からより良い提案が出てくれば、検討を行うことは考えています。
	視察等行っていないのか。	事務局や関係課で、令和３年度に１校、令和４年度に２校、令和５年度に１校行っています。また、令和６年度は開校準備委員の方々と１校視察を行いました。
４　開校準備委員会について	開校準備委員会は何をされていたのか。委員は他の仕事との兼務なのか。	開校準備委員会は義務教育学校の開校に当たり、必要な事項を調査及び検討するため、設置された委員会です。委員は、美保中学校区の地域住民を代表する方、小・中学校の保護者を代表する方、小・中学校の管理職、保育園を代表する方から教育委員会が委嘱しています。協議していただく内容は、事務局が事業の進捗を見ながらお願いしていますので、今回の開校時期の見直しと開校準備委員会は、関係ありません。

5　新しい学校について	子どもが増える見込みがないのに、新しい学校を作るメリットがあるのか。	子どもたちにとってよい教育環境を整えていくことが必要だと考えています。
	今ある学校のどれかをリノベーションすればよいのではないか。	校地の自然的な立地環境、周辺施設等の状況、通学環境及び地域のまちづくりに寄与する位置などを総合的に評価し、特に「通学距離」、「人口重心に近いこと」を重視し、崎津小学校の付近において候補地を選定することになった経緯があります。しかし、崎津小学校の校地のみでは義務教育学校の必要面積を確保できず、同校の隣接地には人家が点在しており、連続した敷地を買い足すという手法によれば、人家の移転を要することから、崎津小学校の校地は利用せず、付近において学校の面積に必要な用地を確保することになりました。
	学校が完成したら公募も開始すると書いてあるが、面接などしてから入学させるのか。	義務教育学校は、現在の崎津小校区、大篠津小校区、和田小校区を校区とする公立の学校です。３校区や校区外から児童生徒を公募する予定はありません。
6　通学について	通学方法に関する検討状況はどうなっているか。通学の距離、雪の日の対応についてどうなっているか。	学校の統廃合により、通学が遠距離化する児童生徒があることを踏まえ、徒歩通学や自転車通学のほか、通学バスについて検討しています。美保地区などの郊外のエリアは、路線バスの再編に合わせて、市営の巡回バスの導入を検討していることから、通学バスについては、巡回バスの活用を検討しているところです。 バス通学の対象、荒天時の対応等については、今後の協議となります。
	通学路の整備について	建築基本設計が今年度末で終了し、学校への進入路が確定しますので、今後、具体的な通学路、通学方法についての協議に入っていく予定です。
7　既存の学校について	校区審議会が始まる前の説明会では、義務教育学校にしないでいたら、中学校だけ弓ヶ浜中学校と合併しないといけない規則があると聞いた。その規則を変更することはできないのか。	現時点では、令和１３年度に美保中学校が、米子市が中学校の適正規模としているクラス替えの可能な１学年２学級以上を満たさなくなることが予見されています。義務教育学校を設置しない場合、いずれ美保中学校の適正規模・適正配置の審議を行うことが想定されます。審議の結果によっては、美保中学校と近隣

		の中学校との統合もあり得るということです。ご質問にあるような規則があるわけではありません。
８　複式学級について	複式学級を回避するための教員の加配に係る費用は、税金から払うことになるのか。	教員の加配は、市が県に協力金を支払うことで可能となります。この協力金は、議会の承認をいただいた上で、市の予算の中から支払うことになります。
	複式学級の正確な状況と今後の見込みはどうなっているか。また、複式学級にならないための市の考えはどうか。	現時点では、令和１０年度に大篠津小の２年生と３年生が複式学級になることが予見されています。市としては、原則として複式学級を回避するための教員の加配は行いません。しかし、美保中学校区の場合は、事業の遅れによって複式学級が生じるため、加配を検討します。
	複式学級にすることは何が悪いのか。	複式学級は国が示す学級の形態の一つですので、決して悪いわけではありません。異学年交流が日常的にできるなど、メリットもあります。
９　その他	学校給食の無償化の検討状況はどうなっているか。	現在、米子市では学校給食の無償化の検討は行っていませんが、国の動向等注視していきます。
	タブレットを用いた授業等で今までよりも各家庭の教育コストの増加が見込まれるが、それに対する対策案はあるか。	米子市内の公立小・中学校では、タブレット購入についての保護者負担はありません。家庭で使用する際の通信料については、現時点では補助等行っていません。
	新しい学校に１～２年しか通わない場合も新しい制服等を買わないといけないか。	制服についての具体的な検討はこれからですが、開校準備委員会学校運営部会では、制服着用については移行期間を設け、保護者負担が少なくなるようにしたいという意見が出ていました。
	延期によって生じる児童・保護者への負担をどのように軽減するのか。	現時点で具体策はありませんが、延期によって新たな負担が生じないように検討していきたいと考えています。
	統合したところで、子どもが増えると思っているのか。	他の地域からも通わせたいと思っていただけるような魅力的な学校づくりを進めていきたいと考えています。
	熱中症対策はどうなっているか。	エアコン設置、グラウンドへの屋根付き開放廊下の設置等を検討しています。